

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎



3月3日から、タイ・バンコクでワシントン条約会議(CITES COP16)が開催される。加盟国は176カ国。少なくとも150カ国以上の参加が予想される地球規模の大国際会議だ。前回、2010年ドーハで開催された会議(COP15)は、大西洋クロマグロを絶滅危惧種に指定する提案をめぐって

◆持続的利用拒む CITES◆

「国際取引の規制」

不当に海産種の持続的利用を阻む事態をもたらすものだと批判する声も多い。

CITESがやっける

秘密投票、現行制度を維持せよ

紛糾し、国際社会に大きな波紋を投げかけた。

以外に、野生生物保護の手段を持たないCITESのあり方について、これまで、疑問が呈されてきている。

◆小国の立場守る 秘密投票◆

秘密投票

特に、近年、CITESで取り上げられることの増えている海産種については、CITESの介入は、むしろ、

は危ういものになりかねなかったようだ。特が支持すれば、秘密投票を実施)に対して、

現在の制度(1カ国計を立てている人々の痛みを知らない者たちの圧力によって、CITESが誤った決定をする事態を防止するため、現在の制度は維持されなければならない。



と、科学委員会が報告の秘密投票だ。秘密投票の直前キャンセル票の実施を困難にする

している。10年のCOP投票によって全ての国が、強国や行き過ぎた環境保護団体のプレッシャーを受けることになった場合、資源回復のデータも得られず、半永久的にクロマグロの利用が途絶する事となり、結局、漁業および関連産業も壊滅せざるを得ないこととなったはずで、今更なるながら、そうする。なければ、提案の否決に從って、投票するものが可能となった。この結果、なんと、E U内部も割れたと言われ、提案は20票対68票の大差で否決された。この秘密投票制度が、強国や豊富な活動資金を有する非政府機関が小国の投票行動に強制や圧力を加えるのを許すだけだ」と述べている。

◆誤った決定を防止◆

もし、係る修正案が採択されることとなれば、秘密投票の利用が実質的に不可能となるのは必定だ。そうなれば、今後のCITESにおいて、科学的な根拠の乏しい不合理な提案があった場合、これを阻止するのは、著しく難しくなるだろう。

◆秘密投票の実施 拒むEU提案◆

拒むEU提案

水産資源も含む野生生物の利用によって生

(毎月1回掲載)